



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

11. 準高冷地における簡易被覆栽培「シャインマスカット」の生育特性

[要約]

準高冷地での簡易被覆栽培の「シャインマスカット」は、県南部と比較し、約 2 か月遅い 10 月下旬頃から収穫が可能となる。また、収穫終期は落葉が進む 11 月中旬頃を目安とする。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 高冷地研究室

[連絡先] 電話 0867-66-2043

[分類] 情報

[背景・ねらい]

岡山県では「シャインマスカット」の生産拡大を図っている。そこで、ブドウ産地が形成されていない準高冷地において、簡易被覆栽培での生育特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 準高冷地の真庭市蒜山（標高 450m）における簡易被覆栽培での発芽は 4 月下旬（県南部の 2 週間後）、満開は 6 月中旬（同 3 週間後）、果粒軟化は 8 月上旬（同 4 週間後）、収穫開始（おおむね糖度が 18 度に達する日）は 10 月下旬から 11 月上旬（同 8 週間後）である（図 1、2）。
2. 通常年には 11 月中旬頃には落葉が進み、果皮の退色がみられるため、この頃を収穫終期を目安とする。
3. 10 月下旬～11 月 1 日時点の果実の糖度は約 17.5 度で、その後樹上に保持しておくことで糖度は緩やかに上昇し 18 度に達するが、収穫終期までの期間は短い（表 1、図 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 日照不足の年は糖度が 18 度に達しない場合がある。
2. 発芽期は 4 月下旬であるが、準高冷地ではこの時期の最低気温が 0℃を下回ることがあるため、発芽後の降霜時には燃焼法等の防霜対策を行う。なお、過去 5 年間では年 1～3 回の防霜対策を行った。
3. 図表中に示した果実形質は無核肥大処理が 2 回処理（1 回目：満開時ジベレリン 25ppm（フルメット 5 ppm 加用）、2 回目：ジベレリン 25ppm）のデータで、2015 年及び 2016 年は花穂発育処理（展葉 6～8 枚期のフルメット 2ppm）を行っている。
4. 着果量は 1.5～2.1 t/10a とした結果である。
5. 落葉の時期よりも先に最低気温が -3℃を下回ると予想される場合には、穂軸の枯れや果粒表面の水浸状の障害などが発生する可能性があるため収穫を早める。
6. 着果管理及び枝管理は県栽培指針に準ずるが、準高冷地では一般的に 9 月以降の降雨が多いため、栽培期間中は簡易被覆（農ポリ 0.05mm）を外さず、降雪前に除去する。
7. 病害虫防除は県防除指針に準じ、降雨が特に多い年には、べと病やさび病を対象として袋掛け後のボルドー液を 7～9 月にかけて 3 回以上散布する。



[具体的データ]

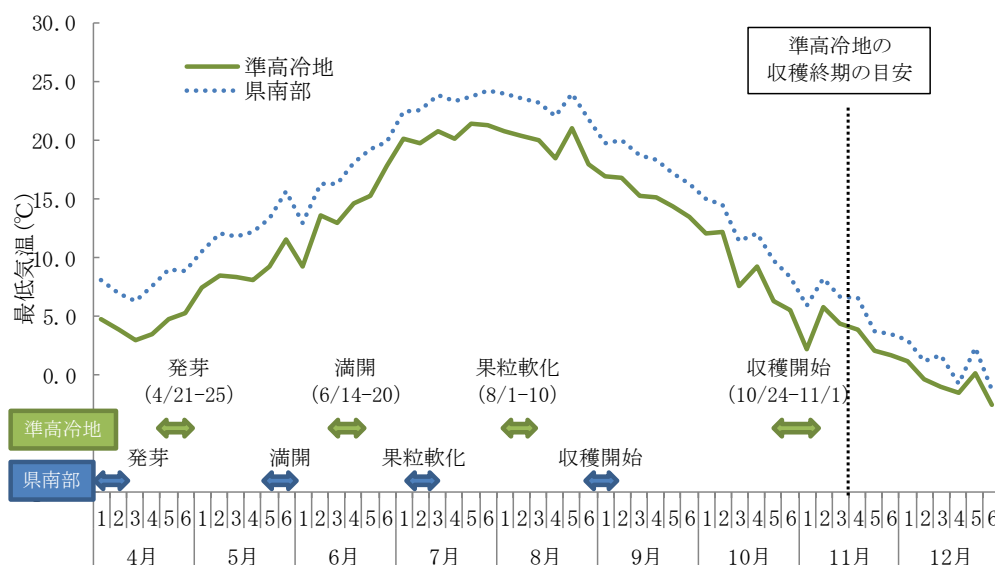


図1 準高冷地(真庭市蒜山)と県南部(赤磐市神田沖)における簡易被覆栽培「シャインマスカット」の生育時期及び半月別最低気温の推移(2015～2018年の平均)

表1 準高冷地で簡易被覆栽培した「シャインマスカット」の10月下旬時点^zの果実の果房重、果粒重、糖度、酸含量及び成熟期の日照時間

年次	樹齢 (年)	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酸含量 ^y (g/100ml)	日照時間 の指数 ^x
2015年	6	692	16.7	17.5	0.39	99
2016年	7	759	16.7	17.7	0.26	91
2017年	8	588	14.4	17.6	0.35	99
2018年	9	690	15.7	17.3	0.33	95

^z 調査日は2015年:10月26日、2016年:10月24日、2018年:11月1日

^y 酒石酸換算値

^x 過去10年間の8～10月の平均日照時間を100としたときの指数

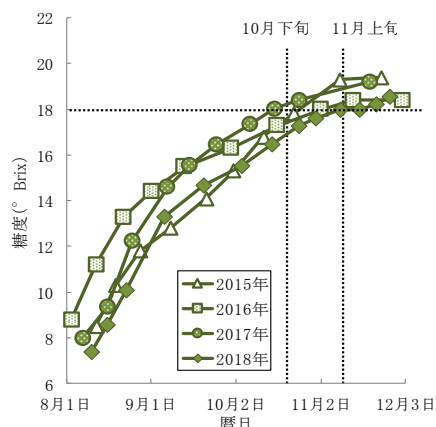


図2 準高冷地における簡易被覆栽培「シャインマスカット」の糖度推移(2015～2018年)

※図中の横線は出荷の基準となる18° Brix

[その他]

研究課題名：準高冷地での「オーロラブラック、シャインマスカット」生産技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2016～2018年度

研究担当者：平井一史、金澤 淳

関連情報等：1) [平成25年度試験研究主要成果、45-46](#)